

令和 2 年国勢調査 -人口・世帯数（速報値）を公表-

総務省統計局統計調査部国勢統計課長 阿向 泰二郎

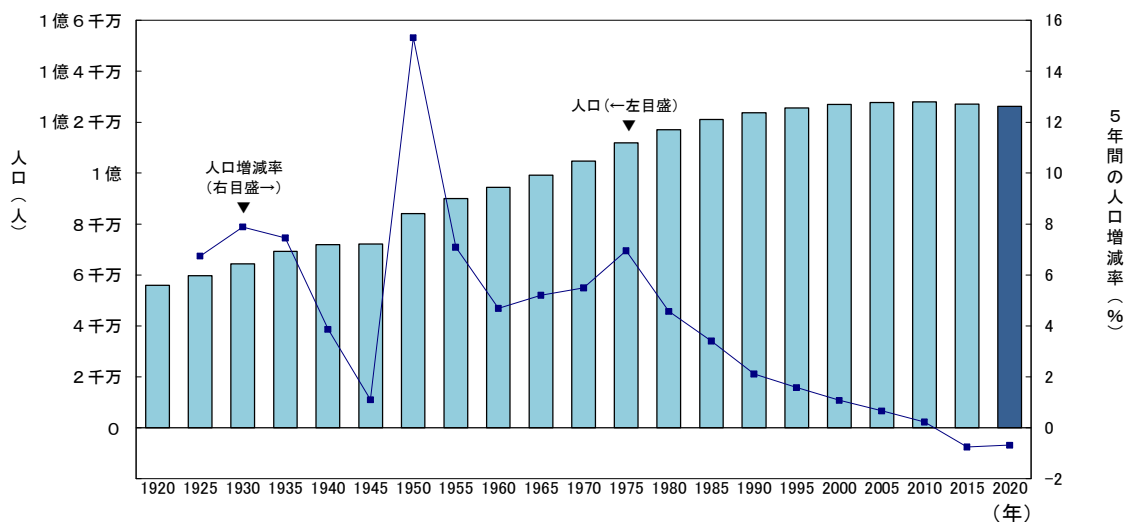
昨年 10 月 1 日を調査期日として実施しました令和 2 年国勢調査について、この度、最初の集計となる「人口速報集計」の結果を公表しましたので、その主な内容について御紹介します。

日本の人口は 1 億 2622 万 7 千人、2015 年に引き続き人口減少

日本の人口は、2020 年（令和 2 年）10 月 1 日現在、1 億 2622 万 7 千人で、2015 年（平成 27 年）から 86 万 8 千人、率にして 0.7%の減少となりました。

国勢調査は、1920 年（大正 9 年）に第 1 回調査が行われ、その後 5 年ごとに実施し、我が国の人口や世帯の実態を明らかにしてきました。調査開始以来、一貫して増加してきた人口は、前回の 2015 年調査で初めて減少となり、今回、これに引き続き人口減少となりました（図 1）。

図 1 人口及び人口増減率の推移（1920 年～2020 年）



日本の人口は世界で 11 番目

国際連合の推計によると、2020 年の世界の人口（年央推計）は 77 億 95 百万人となっており、最も人口の多い国は中国で、次いでインド、アメリカと続き、日本はメキシコに次いで 11 番目となっています（表 1）。

ちなみに、メキシコも日本と同じく 2020 年に国勢調査を行いました。その結果によると、人口は1億 2601 万 4 千人（2020 年 3 月 15 日現在）で、日本の人口よりも 21 万 3 千人少ない結果となっています。ただし、メキシコの人口は、近年、年間で 130 万人を超える増加が続いており、日本の国勢調査の調査日である 2020 年 10 月 1 日では日本の人口を上回ると考えられます。

表 1 世界各国の人口及び人口増加率—人口上位 20 개국¹⁾ (2010 年～2015 年)

順位	国名	人口 (百万人)			世界人口に占める割合 (%)	人口増減率 (%) () 内は年平均			
		2010年	2015年	2020年		2010年～2015年		2015年～2020年	
	世界	6,957	7,380	7,795	100.0	6.1	(1.19)	5.6	(1.10)
1	中国 ²⁾	1,369	1,407	1,439	18.5	2.8	(0.55)	2.3	(0.46)
2	インド	1,234	1,310	1,380	17.7	6.1	(1.20)	5.3	(1.04)
3	アメリカ ³⁾	309	321	331	4.2	3.8	(0.76)	3.2	(0.62)
4	インドネシア	242	258	274	3.5	6.8	(1.33)	5.9	(1.15)
5	パキスタン	179	199	221	2.8	11.1	(2.14)	10.8	(2.07)
6	ブラジル	196	204	213	2.7	4.5	(0.88)	4.0	(0.78)
7	ナイジェリア	159	181	206	2.6	14.3	(2.71)	13.8	(2.62)
8	バンラデシュ	148	156	165	2.1	5.9	(1.15)	5.4	(1.06)
9	ロシア	143	145	146	1.9	1.0	(0.21)	0.7	(0.13)
10	メキシコ	114	122	129	1.7	6.8	(1.33)	5.8	(1.14)
11	日本	128	127	126	1.6	-0.8	(-0.15)	-0.7	(-0.14)
12	エチオピア	88	101	115	1.5	15.1	(2.84)	14.0	(2.66)
13	フィリピン	94	102	110	1.4	8.7	(1.68)	7.3	(1.42)
14	エジプト	83	92	102	1.3	11.7	(2.24)	10.7	(2.05)
15	ベトナム	88	93	97	1.2	5.4	(1.05)	5.0	(0.99)
16	コンゴ民主共和国	65	76	90	1.1	18.1	(3.38)	17.5	(3.27)
17	トルコ	72	79	84	1.1	8.6	(1.66)	7.4	(1.44)
18	イラン	74	78	84	1.1	6.4	(1.25)	7.0	(1.36)
19	ドイツ	81	82	84	1.1	1.2	(0.24)	2.4	(0.48)
20	タイ	67	69	70	0.9	2.3	(0.45)	1.6	(0.31)

資料：United Nations, "World Population Prospects, The 2019 Revision"による年央推計値。

ただし、日本は国勢調査の結果による。

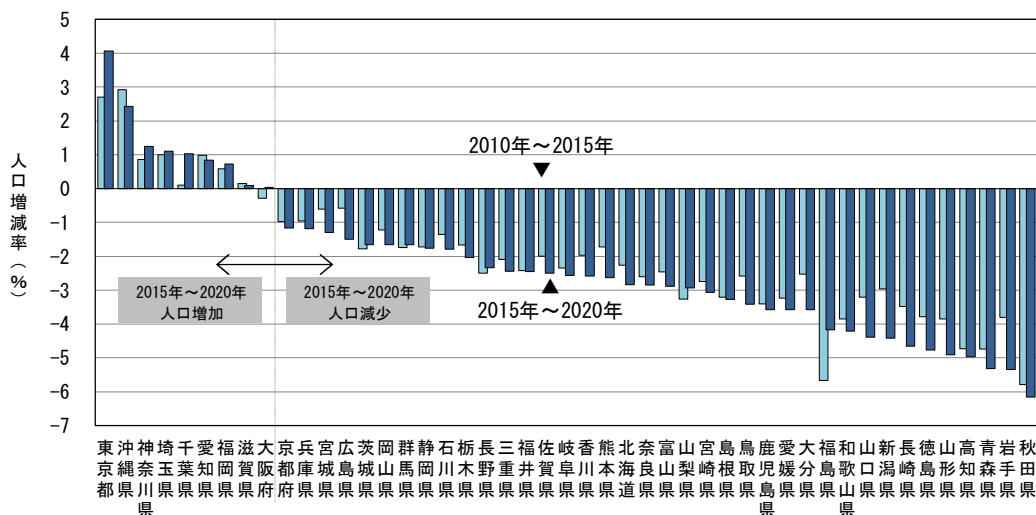
- 1) 2020年の人口による。
- 2) 2020年の中国の国勢調査結果（速報値）は1,412百万人
- 3) 2020年のアメリカの国勢調査結果は331百万人

東京圏の人口は全国の約 3 割

都道府県別の人口をみると、最も多いのは東京都の 1406 万 5 千人で、全国の人口の 11.1%を占めており、東京都に埼玉県、千葉県及び神奈川県を加えた「東京圏」の人口は、3693 万 9 千人で、全国の人口の約 3 割（29.3%）を占めています。

2015 年から人口が増加しているのは 9 都府県で、増加率は東京都（4.1%）が最も高く、次いで沖縄県（2.4%）、神奈川県（1.3%）などとなっています。今回、大阪府が増加に転じました。一方、38 道府県では人口が減少しており、減少率が最も高いのは秋田県（6.2%）で、次いで岩手県（5.3%）、青森県（5.3%）などとなっています（図 2）。

図2 都道府県別人口増減率（2010年～2015年、2015年～2020年）



8割以上の市町村で人口が減少

全国 1,719 市町村のうち 2015 年から人口が増加したのは 302 市町村で、全体の 17.6%を占め、一方、人口が減少したのは 1,416 市町村で、全体の 82.4%を占めています。

10%以上の減少となった市町村は全体の 14.3%、5%以上 10%未満の減少となった市町村は 36.6%となっており、これらを合わせた、5%以上の人口減少となった市町村は 50.9%と、市町村全体の半数を占めています（図3）。

人口増加数が最も大きい市町村は、東京都特別区部で、次いで福岡県福岡市、神奈川県川崎市などとなっています。一方、人口減少数が最も大きい市町村は、福岡県北九州市で、次いで新潟県新潟市、長崎県長崎市などとなっています（表2）。

（注）福島県双葉町は 2015 年、2020 年共に人口が 0 人であり、増減は生じていません。東京都特別区部は 23 区をまとめて 1 市として扱っています。

図3 人口増減率階級別市町村数の割合（2005年～2020年）

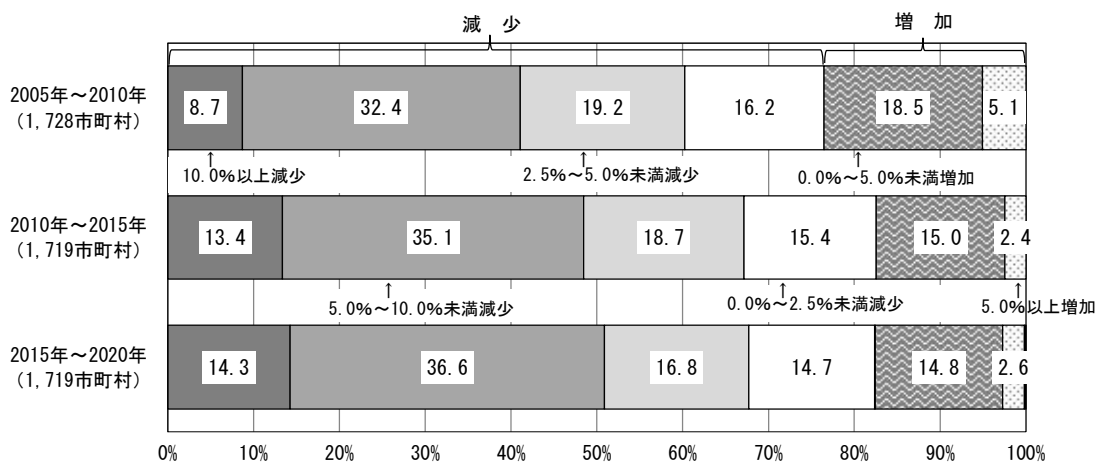


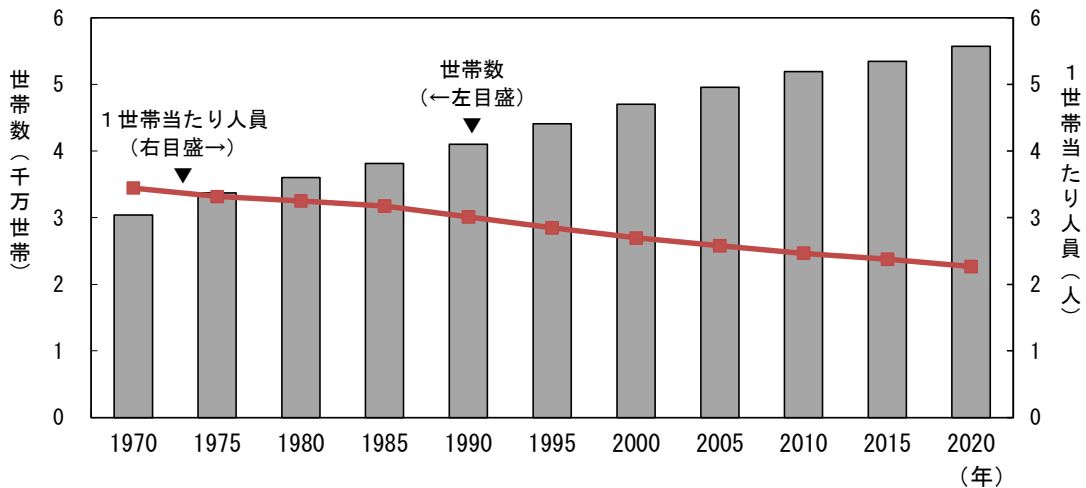
表2 人口増減数の大きい市町村の人口及び人口増減数（2015年～2020年）

順位	人口増加数の大きい市町村			人口減少数の大きい市町村		
	人口増加数の大きい市町村	人口（人） 2020年 (令和2年)	増加数（人） 2015年～2020年 (平成27年 ～令和2年)	人口減少数の大きい市町村	人口（人） 2020年 (令和2年)	減少数（人） 2015年～2020年 (平成27年 ～令和2年)
1	特別区部（東京都）	9,744,534	471,794	北九州市（福岡県）	939,622	-21,664
2	福岡市（福岡県）	1,613,361	74,680	新潟市（新潟県）	789,715	-20,442
3	川崎市（神奈川県）	1,539,081	63,868	長崎市（長崎県）	409,305	-20,203
4	大阪市（大阪府）	2,754,742	63,557	横須賀市（神奈川県）	388,504	-18,082
5	さいたま市（埼玉県）	1,324,591	60,612	いわき市（福島県）	333,202	-17,035
6	横浜市（神奈川県）	3,778,318	53,474	函館市（北海道）	251,271	-14,708
7	名古屋市（愛知県）	2,333,406	37,768	呉市（広島県）	214,717	-13,835
8	流山市（千葉県）	199,960	25,587	下関市（山口県）	255,199	-13,318
9	札幌市（北海道）	1,975,065	22,709	堺市（大阪府）	826,447	-12,863
10	船橋市（千葉県）	642,972	20,082	青森市（青森県）	275,340	-12,308
11	川口市（埼玉県）	594,461	16,349	佐世保市（長崎県）	243,387	-12,052
12	市川市（千葉県）	496,943	15,211	福島市（福島県）	282,802	-11,445
13	仙台市（宮城県）	1,097,196	15,037	静岡市（静岡県）	693,759	-11,230
14	つくば市（茨城県）	241,785	14,822	小樽市（北海道）	111,422	-10,502
15	松戸市（千葉県）	498,293	14,813	日立市（茨城県）	174,635	-10,419
16	調布市（東京都）	242,721	13,660	高知市（高知県）	326,814	-10,376
17	藤沢市（神奈川県）	437,155	13,261	京都市（京都府）	1,464,890	-10,293
18	柏市（千葉県）	426,552	12,598	神戸市（兵庫県）	1,527,022	-10,250
19	吹田市（大阪府）	385,787	11,319	旭川市（北海道）	329,513	-10,092
20	立川市（東京都）	187,089	10,794	一関市（岩手県）	111,970	-9,613

世帯数は5572万世帯で4.2%増加、世帯の規模は更に縮小

世帯数は5572万世帯となり、2015年から227万1千世帯、率にして4.2%の増加となりました。前述のとおり人口は減少しているものの、世帯数は一貫して増加を続けており、この結果、1世帯当たり人員は2.27人と、引き続き縮小しています（図4）。

図4 世帯数及び1世帯当たり人員の推移（1970年～2020年）



インターネットと郵送による回答は合わせて 80.2%

昨年秋の令和2年国勢調査は、新型コロナウイルス感染症流行下での実施となったため、世帯の皆様と調査員との接触ができる限り少なくなるよう、インターネット又は郵送による回答を推進してまいりました。頂戴した回答のうちインターネットは約2100万件、郵送は約2400万件で、インターネットと郵送を合わせた回答数は約4500万件に達し、前回調査に比べて約700万件多い御回答を頂戴しました。

今回公表した人口速報集計結果の世帯数を用いて率を算出すると、インターネットによる回答率は37.9%（前回調査36.9%）、郵送による回答率は42.3%（同34.1%）であり、合わせて80.2%と、前回調査の71.0%に比べ9.2ポイント高い結果となりました。

令和2年国勢調査に御回答・御協力いただきました全ての国民の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

今後の集計について

令和2年国勢調査の結果については、本年11月に全ての調査票を集計した「人口等基本集計」結果（確定人口）を公表する予定です。その後も、人口移動、就業状態、従業地・通学地等に関する集計結果を順次公表してまいります。引き続き御注目いただければ幸いです。

（令和3年6月25日）